

飯豊連峰保全連絡会 ニュースレター

発行者：飯豊連峰保全連絡会

■飯豊連峰保全連絡会 第 22 回会合の概要について

平成 30 年 11 月 7 日（水）、山形県小国町 おぐに開発総合センターにおいて開催されました会合では、平成 30 年度活動報告（1 各団体活動報告、2 飯豊連峰保全連絡会活動報告）、その他の議題について話し合われました。会合の概要をまとめましたので、お知らせいたします。

議題①-1 平成 30 年度各団体活動報告

飯豊連峰に関わる山岳団体、関係行政機関等の各団体より持ち寄られた登山道整備や保全活動等の活動状況の報告、情報交換が行われました。



【平田代表の挨拶】



【会合の様子】

議題①-2 平成 30 年度飯豊連峰保全連絡会活動報告

当会の平成 30 年度活動について、下記のとおり事務局より報告がありました。

平成 30 年度飯豊連峰保全連絡会活動報告

活動	日程	場所	内容
第 21 回会合	6 月 1 日（金）	関川村 関川村民会館	平成 30 年度活動計画等
合同保全作業 下見	8 月 4 日（土）～6 日（月） （2 泊 3 日）	飯豊連峰 玄山道分岐付近	飯豊連峰保全連絡会の合同保全 作業場所について下見を行った
合同保全作業	9 月 8 日（土）～10 日（月） （2 泊 3 日）	飯豊連峰 玄山道分岐付近	洗掘された登山道の修復、植生 復元作業
第 22 回会合	11 月 7 日（水）	小国町 おぐに開発総合セン ター	平成 30 年度活動報告 アンケート結果について 平成 30 年度朝日連峰での活動 情報の共有 その他

議題② アンケート結果について

6 月 1 日に事務局より皆さまに配布のアンケートについて 6 件の回答をいただきました。会の規約、会のあり方、会の活動内容・方法、会の運営方法（事務局のあり方、会議開催方法・頻度等）については、全ての質問について現状のままで良いという回答結果でした。

その他の事項として、次のご意見をいただきました。

・他機関における刈払いルートを把握できること（保全活動が無秩序とならないこと）は有意義に
思います。⇒今後事務局で各団体の活動実施箇所一覧図として共有資料を作成する予定。

裏面に続く→

・飯豊の自然の豊かさ、すばらしさ、大切さを後世に引き継いでいくため、関係機関、団体が連携し取り組んでいきましょう。

議題③ 平成30年朝日連峰での活動情報の共有

朝日連峰保全協議会の朝日連峰三方境における合同保全作業の紹介、情報共有をしました。

議題④ UAV(ドローン)を使った調査

飯豊連峰における御西小屋周辺の映像、朝日連峰金玉水の対策検討調査でのドローン使用事例を紹介しました。今後より効果的な保全の取り組み、植生復元の工法を考えるために有効活用していきます。

【質問】飯豊山系においてのドローン撮影について規制はあるのでしょうか？

⇒ドローンは航空法で規制されている他、林野庁では国有林内でドローン飛行させる場合、入林届を提出するよう要請しています。環境省では、国立公園内での飛行については、特に規制はないですが、人が集中する場所や時期には飛ばさないでいただきたいというお願いをしています。

その他

(情報提供) <井上邦彦幹事より>

●今後の荷揚げヘリの運行について

従来飯豊連峰各避難小屋で使用する物資の輸送をお願いしていたヘリ会社が来年から新潟空港の駐機を辞めるため、遠方からのフライトは免れなくなり、経費が急騰すると言われている状況。今後飯豊全体が一丸となり価格交渉をしていく必要があります。

ヘリ空輸費も値上げされる中、各小屋で協力金の値上げを検討しているとの話を耳にしましたので、情報提供までご報告いたします。

●山小屋サミットについて

飯豊連峰の稜線上の小屋は全て避難小屋と位置づけられており、自然環境が厳しく老朽化も進んでいるので丁寧に維持管理することが求められています。各県、市町村によって体制が異なることもあり、数年前から山小屋を維持管理するメンバーが春先に集まり“山小屋サミット”を開催、情報共有を図っています。

●日本山岳基金について

第21回会合前の幹事会において承認いただき、NPO法人飯豊朝日を愛する会として梶川尾根上部での保全を目的に、日本山岳遺産基金(山と溪谷社)に応募(理由①従来保全をしてきた箇所には土砂が溜まり、それを再利用してもう一步進んだ保全が出来るところまで来ている。②保全工法が多岐にわたるようになりかなりの資材を使用する為、保全資材の購入、ヘリの空輸費等に対し、支援が必要。)したところ、承認されました。来年度の当会合同保全作業箇所として梶川尾根上部を検討いただければ幸いです。

⇒Q: 滝見場のところも痛んでいますが、梶川尾根上部だけでいいのでしょうか？

A: 滝見場は、かなり狭い場所で樹林帯でもあること、森林管理署とも話し合いながら、チェーンソー等を使用出来る人などに絞って作業した方が良い場所。一般の人を公募して行う保全作業として大規模に作業をするには難しい場所なので、合同保全作業は梶川尾根上部が望ましいと思います。

●平成30年度自然公園指導員表彰受賞

当会幹事井上邦彦氏(NPO法人飯豊朝日を愛する会副理事長・小国山岳会会長)が、環境省の自然公園指導員として永年にわたってその職務に精励され、登山者に対する各種指導、登山情報の情報提供、登山道保全作業等の功績が特に顕著であるとして、平成30年度自然公園指導員表彰を受賞し、当会にて表彰状の授与が行われました。



第22回会合では22団体37名の方々にご参加いただきました。来年度も飯豊連峰に関わる皆様と手を携え保全活動・情報共有を進めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【発行者】飯豊連峰保全連絡会

(事務局)東北地方環境事務所国立公園課(木住野)
羽黒自然保護官事務所(澁谷)
〒997-0141 山形県鶴岡市羽黒町荒川字谷地堰 39-4
TEL: 0235-62-4777 / 080-2801-0648 FAX: 0235-62-4537
E-mail: RO-HAGURO@env. go. jp

【参考ホームページ】

・環境省 磐梯朝日国立公園 各種資料
(飯豊連峰保全連絡会の会則やニュースレター等)
<http://www.env.go.jp/park/bandai/data/index.html>
・東北地区アクティブ・レンジャー日記
<http://tohoku.env.go.jp/blog/>